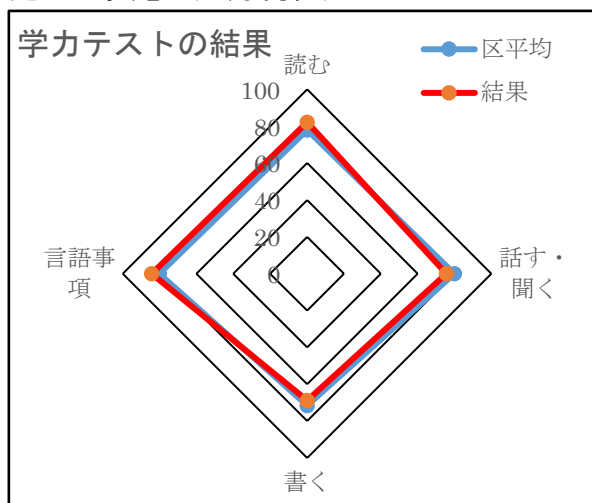


第4学年 国語科

児童の実態（7月現在）



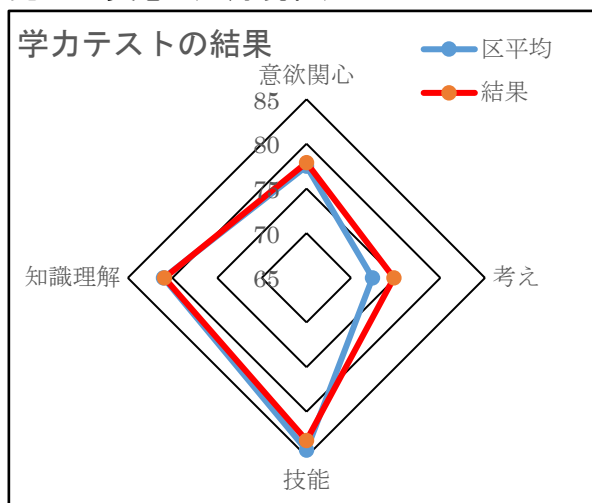
<実態の分析>

読む／言語事項観点においては、区の平均より高く、話す・聞く／書く観点においては、区の平均より低い結果となっている。話す・聞くについては、特に、互いの考えの相違点や共通点を考えながら聞くこと、書くについては、調べた結果の表をもとに文章を書くこと、での正答率が低い。視点を明確にして話したり聞いたりすることや、表の分析の仕方を理解させる必要がある。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
[課題設定] 単元によって、活動の広がりが必要になってくる。	[指導] 主体的に活動できるように、目的意識をもち、ゴールを明確にした学習活動にする。	[補充的な学習指導] 漢字は個人差が大きく、実態に合わせて、課題を設定し、家庭学習などを含めて練習させるようにする。 [発展的な学習指導] 漢字の熟語を含めて、新しく覚えた言葉をいろいろな場面で活用する機会を設ける。学習したことをさらに深め、調べ学習を行う。
[学習形態] グループ学習での活動や全体での発言に偏りが出てしまう。	[学習形態の工夫] 1人→少人数→全体という流れで学習を進める。	
[発問・指示・板書計画] 板書する内容の量が単元によって異なる。	[発問・指示・板書の工夫] 発問・指示は短く明確にし、板書する内容を精選する。	
[教材の活用] ICTの活用において、資料掲示が多く、その他の活用ができていない。	[教材の工夫] 思考の流れを想定しながら適切なワークシートを作成したり、ICTを活用したりする。	
[評価の方法] 毎時間の一人ひとりの学習状況を把握する必要がある。	[評価の工夫] 学習の振り返りを取り入れたり、話し合い活動の様子も記録したりする。	
<評価・修正>		
[評価] 学習のゴールを明確にすることで、目的意識をもって授業を行うことができた。学習形態を整えることで、活発に意見交換ができた。思考の流れに沿ったワークシートを用意することは、読み取りや作文に効果的だった。		

第4学年 算数科

児童の実態（7月現在）



<実態の分析>

数学的な考え方においては、区の平均よりも高く、数量や図形についての技能・知識・理解においては、区の平均よりもやや低い結果となっている。特に「長さや重さ」で身近にあるものの重さを推察する問題、式の意味を場面と結び付けて説明する問題での正答率が低い。具体物を使用したり、立式までの過程を十分に理解させたりする必要がある。

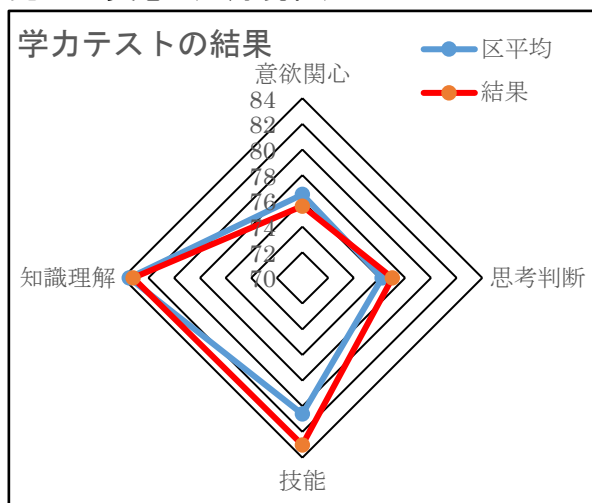
<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
[課題設定] 教科書の扱う数値や問題では、習熟に沿っていないことがある。	[指導] 習熟の程度に応じて扱う数値を変えるなどして、児童の実態に沿った課題にしていく。	[補充的な学習指導] 補充はたくさん行うのではなく、時間を決めて重点的に行う。
[学習形態] 習熟に分かれていても、進度に差が出てきてしまう。	[学習形態の工夫] 1人→少人数→全体の形態とともに、教え合う時間や個別指導の時間も十分に取り入れる。	
[発問・指示・板書計画] 自分の考えをわかりやすく伝えられるようにする必要がある。	[発問・指示・板書計画] ICTやホワイトボードを活用し、考えを共有する。	[発展的な学習指導] 難しい問題を解かせるのではなく、より簡単な解決方法を見つけることによって算数好きになるような質の高い問題を用意する。
[教材の活用] ICTをもっと有効に活用する。	[教材の工夫] 具体物による操作ができる教材や児童の興味や関心を高める教材を工夫する。	
[評価の方法] 毎時間の一人ひとりの進捗を把握する。	[評価の工夫] 学習の振り返りや解答状況を記録し、次の指導に生かす。	

<評価・修正>

[評価] 学習形態を工夫したり、考えを共有する時間を十分に設けたりすることで、意見が活発になり、様々な考えを取り入れることができた。

第4学年 社会科

児童の実態（7月現在）



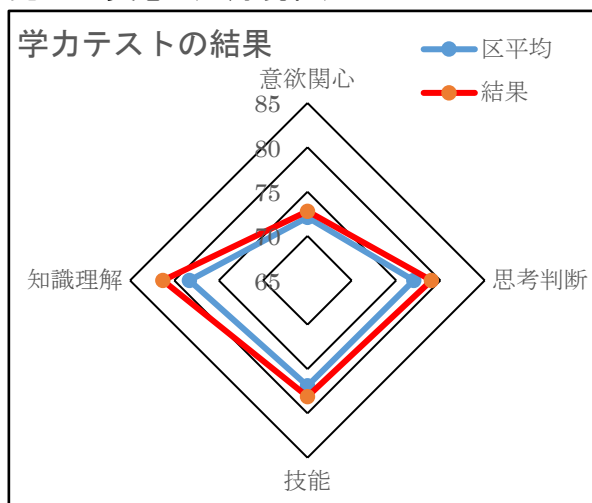
<実態の分析>

社会的な思考・判断・表現、観察・資料活用の技能においては、区の平均より高く、社会的事象についての知識・理解においては、区の平均と等しい結果となっている。問題別にみると、地図記号や方位を活用して答える問題での正答率が低い。地図記号や方位は普段から活用できるようにしていく必要がある。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定] 単元によって課題設定が曖昧になり、学習意欲を高められないことがあった。</p>	<p>[指導] 主体的に取り組めるような課題を設定する。</p>	<p>[補充的な学習指導] 実生活に即した学習を行い、楽しみながら学習に取り組めるようにする。</p>
<p>[学習形態] 個人での学習が多くなってしまった。</p>	<p>[学習形態の工夫] 個人だけでなく、グループでの活動も取り入れる。</p>	
<p>[発問・指示・板書計画] 板書を写すことに時間がかかってしまいがちである。</p>	<p>[発問・指示・板書の工夫] 板書内容を精選し、児童が工夫をし、わかりやすくまとめられるようにする。</p>	<p>[発展的な学習指導] 図書資料やインターネットで調べたことを掲示物等にまとめる方法（新聞・ポスター・リーフレット・パンフレット）を指導する。</p>
<p>[教材の活用] 教科書だけの掲示物では資料が少なく、PCでは資料が多すぎてしまう。</p>	<p>[教材の工夫] 適切な資料を用意するとともに、PCでは資料を絞って提示する。</p>	
<p>[評価の方法] 毎時間の目標を明確にもつことが必要である。</p>	<p>[評価の工夫] 学習の振り返りや課題に対する考えなど、毎時間・毎単元で適切に評価する。</p>	
<h4><評価・修正></h4>		
<p>[評価] 提示する資料の吟味や提示方法・順番などを工夫することで、焦点を絞って読み取ることができた。学習のまとめで新聞やポスター、ガイドブックづくりなど様々な方法を取り入れることで、学びを活用することができた。</p>		

第4学年 理科

児童の実態（7月現在）



<実態の分析>

科学的な思考・表現、観察・実験の技能、自然事象についての知識・理解においては、区の平均より高い結果となっている。問題別にみると、電気の通り道、太陽と地面の様子活用の活用、虫眼鏡の使い方の正答率が低い。学んだ知識を活用して考える力を身に付けていく必要がある。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定] 単元によって学習意欲を高められないことがあった。</p>	<p>[指導] 意図的に気付きを導けるような事象提示を工夫する。</p>	<p>[補充的な学習指導] プリントや視聴覚教材での復習を取り入れる。</p>
<p>[学習形態] なるべく一人一実験できるように道具を準備したが、考えを共有する時間が少なかった。</p>	<p>[学習形態の工夫] 考えを共有する時間を十分にとり、学び合えるようにする。</p>	
<p>[発問・指示・板書計画] 学習過程を明確にして板書してきたが、ノートの活用に個人差がある。</p>	<p>[発問・指示・板書の工夫] 板書を写すだけでなく、自分でも工夫してまとめられるようにする。</p>	<p>[発展的な学習指導] 学習したことを活用し、おもちゃ作りや調べ学習を行う。身近なものに置き換えて考えられるようにする。</p>
<p>[教材の活用] 数が少ない実験道具もあり、スムーズに実験が行えないことがあった。</p>	<p>[教材の工夫] 手順や結果がわかりやすい実験道具の開発をする。実験道具を充実させる。</p>	
<p>[評価の方法] 毎時間の目標を明確にもつことが必要である。</p>	<p>[評価の工夫] 学習の振り返りや課題に対する考えなど、毎時間・毎単元で適切に評価する。</p>	

<評価・修正>

[評価]

予想の根拠を明確にすること、考察の書き方を提示することが定着してきている。結果の予想をたてることで、言葉で予想したことを具体的に図などに表し考えることができた。学習の流れが身に付いてきている。

第4学年 体育科

<実態の分析>

- ・運動に対しては意欲的で、授業以外の休み時間にも体をすすんで動かしている児童が多い。
- ・1学期は集団行動・体づくり運動・かけっこ・リレー、表現運動（運動会の練習）、マット運動、浮く・泳ぐ運動の領域の学習を行った。
- ・個人の技能に重点が置かれる運動については、自分の課題に応じた練習方法を選び、友達とかわりながら運動できている。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
[課題設定] 1時間の中で何を目標にするのか明確にする必要がある。	[学習のねらいの明確化] 学習カードを用いて、毎時間のめあてを記入する。(個人、全体)	[補充的な学習指導] 休み時間などにもできる運動を紹介し、運動に親しもうとする気持ちを育む。
[学習形態] 児童同士の学び合いの時間を取り入れる。	[学習形態の工夫] 課題別や技能別など、内容に応じてグループを構成する。	
[指示・支援] ポイントの説明に多く時間をとらないようにする。	[指示・支援の工夫] ポイントを明確に伝えるとともに、児童からの気づきを大切にする。	[発展的な学習指導] ICTを有効に活用し、技能をより高められるようにする。
[場の工夫・学習資料] 場が多すぎることで児童の思考を狭めてしまうことがある。	[場の工夫・学習資料] 運動の特性、児童の実態に応じた場の工夫をする。	
[評価の方法] 行動での観察の際、1時間の中で全員を評価することが難しい。	[評価の工夫] 一単位時間の目標、評価の規準を明確にする。単元を通して児童の進度を計画的に把握できるようにする。	

<評価・修正>

[評価]

課題別や能力別など運動に適した学習形態を取り入れることは、友達とのかかわりが活発になったり、自己の能力を高めたりすることに効果的だった。授業で取り入れた内容を休み時間にも取り入れる姿が見られた。